

1・本園の教育目標

- ・基本的な生活習慣を身につけ、心と丈夫な身体を育てる
- ・周りの人や自然とのふれあいを通して、感動する喜びを育てる
- ・遊びを通して仲間との関係を育み、秩序と協調の精神を育てる
- ・経験したこと、考えたこと等を言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育む
- ・家庭と地域との協力のもとに、思いやりのある子どもに育てる

2・本年度の重点的に取り組む目標…表内赤文字

3・評価項目の達成及び取り組み状況

取組と成果に関する評価結果… A：とても良い B：良い C：普通 D：良くない（要検討）

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価
定め、保育計画、実践をする。 ① 保育の計画性	・幼稚園教育要領の理解を深め、保育準備を行う。	4 (14)	保育実践について子どもの様子とともに記録・考察し、次の実践に活かす。	B (3.37)	4 (14)	友達と一緒に繰り返し遊びを楽しむようになった。	B (3.24)	B
		3 (9)	定期的に5領域の内容と照らし合わせて保育実践を行う。		3 (9)	遊び、活動の楽しさに気付き、自分なりの思いや考えを示すようになった。		
		2 (4)	指導計画に沿って指導のねらい、内容を見直す。		2 (5)	いろいろな遊びや活動内容に興味を持つようになった。		
		1 (0)	「幼稚園教育要領」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。		1 (1)	子どもの楽しんで遊ぶ姿が増えてきた。		

評価結果に関する説明・意見

- 子どもの育ちを大切に考える方について理解が深まり、保育準備では子どもの興味や発達に合っているかを考えながら教材や環境を整えることを意識した。
- 行事のカリキュラム合わせや反省については、細かな所まで打ち合わせや意見の交換等をしているが、日々の保育については、学年主任が指示や説明をするだけになっている。もっと活発に意見を出し合い、保育後のエピソードや反省を伝え合い、活動のねらいや教育要領のどの部分に沿って計画を立てたか、10の姿の中でどの項目が育ったか等を話し合ったり教えたりしたい。
- 計画が絶対なわけではなく、クラスの子どもの実態に合わせて柔軟に調整することで、子ども達が主体的に遊びや活動の楽しさに気付き、繰り返し楽しむ機会が増えたと思う。
- 長期的な見通しを持って保育計画がなされており、子どもたちが楽しく保育に参加し成長出来ている。一方であまり参加意欲のない子どもも埋もれているため、そういう少数の子どもたちへの声掛けや関わりが課題だと思った。
- 保育活動の計画に5領域のねらいが盛り込まれ、保育実践にも先生が意識的に子供に伝えたり問いかけたりしていると感じる。この時々で教育要領との照らし合わせができるとさらに理解を深められると考える。

重点 目 標	評価項目	評価指標及び評価結果						
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価
する。 幼児の興味関心を見通した環境作りを ② 教育課程・指導	・表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性を育むための環境づくりを行う。	4 (13)	幼児の興味・関心に即した環境づくりについての園内研修を月1回程度行う。	B (3.20)	4 (13)	遊びの中で、試してみたり、友達と協力したりするようになった。	B (3.23)	B
		3 (5)	幼児の興味・関心に即した環境づくりについての園内研修を2ヶ月に1回程度行う。		3 (12)	友達や教師と遊ぶ中で、次に遊びたいことややってみたい事を、言葉や行動で表現するようになった。		
		2 (4)	幼児の興味・関心に即した環境づくりについての園内研修を学期に1回程度行う。		2 (4)	友達や教師と関わって遊ぶことで、遊びの内容が広がってきた。		
		1 (2)	幼児の興味・関心に即した環境づくりについての園内研修を年に1回程度行う。		1 (1)	友達や教師と遊ぶ。		

評価結果に関する説明・意見

- 園内外で季節を感じる自然物が豊富なので、日々の保育に取り入れ、子ども達が四季を感じる事が出来ている。
- 作品を認め合える雰囲気づくりや、安心して表現できる環境づくりを行う事で、豊かな感性を育むことことに繋がっていると思う。
- 自分がやりたいようにただ遊ぶだけではなく、お互いのイメージするものを一緒に作り上げていくようになり、相手の意見にも耳を傾け言葉による伝え合う場面が増えた。遊び込める時間や場所などの確保、教材の準備などが必要と思う。
- 幼児を個々に見れば言葉や行動であそび表現ややりたい事表現が伸びてきたと感じる。その一方で、個人差が大きい為、保育者としての資質（人的環境）が重要だと感じる。
- おゆうぎ会等で興味を持った事を心ゆくまで楽しめる様に準備・配慮したり、四季の移り変わりを教師自身が楽しんだりしているか教師一人一人が環境について意識したい。
- 園内研修をしながら表現遊びの環境づくりを取組指標にはしたものの、定期的な計画を立てられなかった。
- 日常の保育で先生方が子どもの声をよく拾って会話をしていると思う。制作や絵画などの活動でもクラスや個々によって違いが出るような展開につなげられるようにしていきたい。

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価
支援に努める 保護者の実情やニーズに応じた子育て ③ 子育て支援	・保護者の家庭教育につながるような情報発信をする	1 (13)	家庭と子どもの成長を伝え喜び合う。	B (3.7)	4 (20)	家庭との情報共有が増え、子どもの生活がより豊かになった。	B (3.58)	B
		1 (14)	保護者からの相談や連絡には、先輩や同僚と連携・相談しながら適切に対応する。		3 (6)	家庭での遊びの様子が多く聞かれるようになった。		
		1 (14)	定期的に保育を情報発信し、個々のエピソードを知らせる。		2 (3)	保護者の子どもへの理解が深まった。		
		1 (15)	園生活の様子を記録する。		1 (0)	家庭との会話が増えた。		

評価結果に関する説明・意見

- 毎月、一人一人の記録を行っている。また、週1回職員会議を行い、クラスごとの欠席状況や子どもの様子、エピソードなどを共有できている。
- 行事の際は、練習に挫けそうな子や登園を嫌がる子などがいる中で、保護者と密に連絡を取り、子ども達を励ましながら安心して登園できるように保護者と相談し合ったり、お迎えの際に練習中の楽しいエピソードなどを話したりしたことで信頼関係が築けたように思う。
- 園での様子をおたよりで共有することが出来ている。また、一人で考えるのではなく、先輩や同僚と連携しながら対応することが出来ている。
- 家庭から相談など連絡を受けると適宜学年や関係職員で話題共有をしていると思う。職員同士の終礼やケース会議の取組みも子ども理解や家庭への声掛けに活かされていると感じる。
- それぞれの家庭環境を考え、保護者ごとに対応、支援が違うので、認識のずれが生じない様に、関わる職員間では常に状況を共有し、適切なサポート、判断が出来る様に心がける事が必要だと思う。
- 日々の子どもの姿や育ちの背景を丁寧に伝えることを意識し、家庭教育に繋がる情報発信に取り組んできた。子供への関わり方についての理解が深まってきていると感じる。また、子供の園での姿や成長の過程を継続的に伝えることで保護者とともに成長を喜び合っている。

○総合的な評価結果

評価	理由
3. 3 (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領に関することを評価項目にあげたことで、徐々に子どもの思いに意識を向ける保育計画や準備、実践へと変化するきっかけとなった。今後はさらに教師間で日々の保育の子どもを語り合いながら次への保育準備の意見交換ができるようにしていきたい。 ・ 園内研修の形式を作っておらず園全体の研修の回数は少なかったが、表現遊びに着目した保育計画と教材準備は各学年での取り組みに反映された。教諭一人一人が今後も意識的に子どもの興味関心を探りながら、思いを様々な形で表現遊びができるような環境作りを行う。 ・ 園全体で子どもの姿、家庭の状況を共有し合おうと意識的に伝え合い、家庭へ情報提供することで、互いに子ども理解が深められ、よりよい連携につながっている。日頃の連携があり、子どものトラブルを報告する時や特別支援の内容の話を進める時に話題が進めやすい。

○今後取り組む重点的課題

課題	具体的な取り組み方法
① 教育課程・指導	<p>一人一人の育ちを支える保育の充実</p> <p>認定こども園への移行に伴い、0～2歳児を含めた多様な発達段階の子どもを受け入れることを踏まえ、幼児理解を深めるとともに、発達や特性、年齢に応じた関わりについて学び合い、一人一人に応じた支援の充実を図る。</p>
② 組織運営	<p>協働による保育体制の構築</p> <p>園児の年齢、今まで以上に職員が互いの役割や専門性を理解し、幼児保育と乳児保育それぞれの視点を踏まえた連携を図ることが大切になる。園全体で子どもの育ちを支える協働体制の構築を目指す。</p>
③ 保護者・地域との連携	<p>子どもの育ちを支える環境と家庭との連携の充実</p> <p>年齢の幅が広がることを踏まえた安心できる環境づくりを進めるとともに、家庭との信頼関係を基盤に子どもの育ちを共有しながら、連携した子育て支援の充実を図る。</p>

- 上津役幼稚園は、子ども一人ひとりを大切にする温かな保育が実践されており、園内には落ち着きと安心感のある雰囲気醸成されている。園長先生の誠実で思いやりにあふれたお人柄が園全体に行き渡り、職員の連携のもと、信頼される園運営がなされている。
- 遊びを通じた主体的な学びを大切に、子どもたちの意欲や思いやりの心を育てている点は高く評価できる。基本的な生活習慣の定着や集団生活のルールを理解など、就学に向けた基礎づくりも丁寧に行われており、小学校への円滑な接続につながる実践がなされている。
- 来年度より幼稚園型認定こども園へ移行されるとのことであるが、これまで培ってこられた教育内容や温かな園風を基盤に、教育・保育のさらなる充実が期待される。
- 保育時間の多様化や子育て支援機能の拡充により、地域にとって一層重要な役割を担う施設となることが見込まれる。移行期においては、保護者への丁寧な説明と職員間の共通理解を図りながら、円滑な運営が進められることを期待する。
- これまでの実践を大切にしながら、幼稚園型認定こども園としての新たな歩みを着実に進められることを願う。また、地域や小学校との連携を一層深め、子どもたちの健やかな成長を支える拠点として発展されることを期待する。